

# トガリネズミの話

中 田 圭 亮

山道を歩いていて、小さくてかわいい動物の死体を見つけたことはありませんか。鼻先が長くて尖っていたら、まずトガリネズミと考えられます。トガリネズミ類はネズミの予察調査の時にもしばしば捕りますから、すでに知っている人もいることでしょう。

ここでは北海道にいるトガリネズミ類の種類やその生態にふれながら、森林害虫を食べる有益な面を紹介します。北海道では最近カラマツ人工林のハバチ類の被害が目立ってきましたが、外国ではこれらの天敵としてトガリネズミの役割が高く評価されています。



図 - 1 山道でトガリネズミの死体を見つめました。

(図はすべて Crowcroft, 1975 による。)

## トガリネズミ類の種類

北海道にいる小さな哺乳類を代表するものはネズミの仲間(げっ歯目)とトガリネズミの仲間(食虫目)です。この両者の区別点を図2に示しました。トガリネズミ類の起源は古く、化石は中生代白亜紀の地層から出てきます。世界中には8科400種前後のトガリネズミの仲間がいます。日本にはトガリネズミのほか、ヒミズ、モグラなど8グループ(属の単位)がいます。本州の平野や山地ではモグラやヒミズが優勢です。トガリネズミは主に山岳地帯に棲んでいて数は多くありません。北海道にモグラやヒミズはいません。北海道で“モグラ”と呼んでいる動物はトガリネズミのことです。ですから食

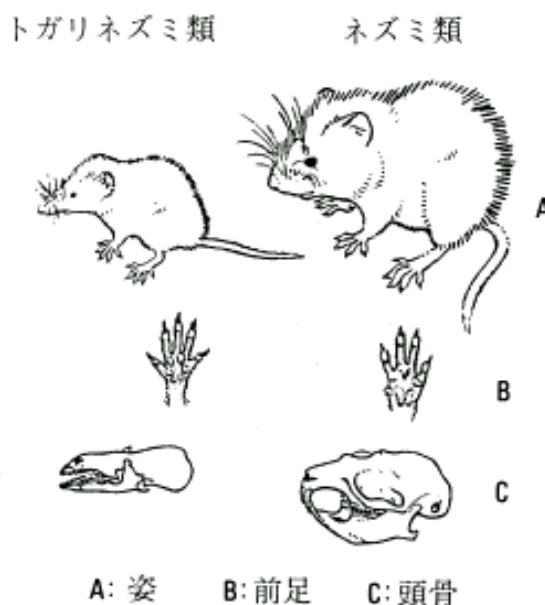


図 - 2 ネズミ類とトガリネズミ類をみくらべて下さい。

トガリネズミ類は長くて尖った鼻先、小さな目、ピロード状の毛足の短い毛皮、5指のついた前足、細長い頭骨、連続した歯列をもっています。

虫目の種類構成からみると、本州ではモグラやヒミズが主役でトガリネズミは端役にすぎませんが、北海道ではトガリネズミの一人舞台といえましょう。

北海道にいる食虫目は次にあげるトガリネズミ属 4 種とジネズミ属 1 種の計 5 種です。

オオアシトガリネズミ

エゾトガリネズミ

カラフトヒメトガリネズミ

チビトガリネズミ (= トウキョウトガリネズミ)

ジネズミ

もっとも普通な種類はオオアシトガリネズミとエゾトガリネズミです。カラフトヒメトガリネズミの生息密度は低く、あまり多く捕まりません。また渡島半島からはまだみつかっていません。チビトガリネズミとジネズミはいままで 10 個体前後しか捕まっていない珍しい種類です。とくにチビトガリネズミは世界の哺乳類のなかで最も小さいものの一つです。体重はわずか 2g 前後しかありません。ジネズミはトガリネズミに近縁の種類で、姿、かたちがよく似ています。そのため、外国でこの仲間は“白い歯のトガリネズミ”と呼ばれています。トガリネズミ類は北海道本島をはじめ、利尻島、礼文島、天売島、大黒島に分布しています。奥尻島や焼尻島からは採集されていません。

### トガリネズミ類の生態

わたしたちのよく目にふれるオオアシトガリネズミとエゾトガリネズミを主にして述べます。そのほかの種類の生態はあまり調べられておらず、よくわかりません。

トガリネズミ類は原野や森林の落葉層や腐植上層を主な生息場所としています。食物は昆虫が最も大きな部分を占め、その他、クモ、ジムカデ、ミミズなどの無脊椎動物や植物質です。オオアシトガリネズミでは食物のおよそ 6 割が昆虫、2 割がミミズ類、1 割弱が植物根茎や種子です。繁殖は春から秋にかけて行い、春に大きな繁殖の山があります。妊娠期間はおよそ 17 ~ 28 日、仔は裸のまま眼を閉じた状態で生まれてきます。通常 1 回に生まれる仔の数はオオアシトガリネズミで 5.1 仔、エゾトガリネズミで 7.1 仔程度です。寿命は長くても 12 ~ 18 ヶ月程度と思われます。トガリネズミ類は体が小さいため常に食物をとっていないと生命が維持できません。そのため昼夜を問わず活動しています。また冬も活発に動き回っています。

飼育はネズミにくらべて、手間はかかりますが、そう難しくありません。餌には生きた昆虫やミミズがよいのですが、ひき肉でも間に合います。オオアシトガリネズミには生肉を 1 日に体重と同じくらい与えれば十分です。また水を与えることも必要です。

かってトガリネズミはネズミの天敵であるといわれました。北アメリカにはネズミをとって食べるトガリネズミの一種 (*Blarina brevicauda*) がいますが、北海道のトガリネズミは死体を別にして元気なネズミをとって食べることはないと思われます。

### 森林害虫の捕食者としての役割

森林には本来の生活の場として、あるいは越冬や蛹化のために落葉層や土壌中ですごす時期をもつ昆虫がたくさんいます。これらは小哺乳類（ネズミ類やトガリネズミ類）の恰好の食物となっています。北海道の森林害虫では八バチ類，シャクガ類，ヒメハマキ類の一部，コガネムシ類，ツガカレハなどが挙げられるでしょう。

かつて旭川地方でカラマツハラアカハバチが大発生した時にエゾトガリネズミ，ヒメネズミが天敵として報告されました。また，ここ2～3年にわたり大発生が続いている苫小牧地方の被害林分から，繭を研究室に持ち帰り調べたところ，食痕などからネズミ類やトガリネズミ類がかなりの数の八バチ蛹を食べていることがわかりました。カナダでもトガリネズミ類がカラマツハラアカハバチの繭を食べることが知られています。トガリネズミの一種（*Sorex cinereus*）では生命を維持するのに必要なカロリー量や行動習性などから計算して，八バチの蛹化期間に1頭あたり最大75,000個の繭を食べたり，こわしたりすることが報告されています。苫小牧地方のカラマツハラアカハバチの繭はhaあたり32万個と推定されていますので，単純な割り算をすれば，およそ5頭のトガリネズミがいれば食いつくされることになります。これは少し過大評価で，現実には決してこうはなりません。しかしトガリネズミが捕食者として大きな能力をもっていることはうかがい知ることができましょう。

詳しく知りたい人は次の文献が参考になります。

阿部 永 1976 食虫類の生態 . 生物科学  
第28巻1号:10 - 15 岩波書店。

佐藤平典 1978 東北地方における八バチ類の繭を捕食する小哺乳類及びその役割 .  
岩手林試研報 第2号 : 1 - 26。



(昆虫野兎鼠科)